# 南建設 ＩＣＴ舗装を導入

# 能越道輪島道路で初

## 北川ヒューテックが協力

## 生産性向上へ期待

ＩＣＴ舗装が導入された能越自動車道輪島道路の現場＝輪島市内

南建設（志賀町、南裕基社長）は、輪島市三井町洲衛の能越自動車道輪島道路の工事現場でＩＣＴ（情報通信技術）舗装の施工を導入した。同道路でのＩＣＴ舗装は初めてで、生産性の向上や工期の短縮が期待される。

ＩＣＴ舗装の施工ノウハウや導入実績を持つ北川ヒューテックが協力した。

ＩＣＴ舗装が採用されたのは、北陸地方整備局金沢河川国道事務所から昨年９月に発注された「能越道洲衛道路その４工事」。のと里山空港インターチェンジ（ＩＣ）のオンランプ（施工延長約４６０㍍）を整備する内容で、概要は掘削工１万８００立方㍍、路床盛土工３３００立方㍍、法面工９６０平方㍍、舗装工３６８０平方㍍などとなっている。

工事では、３次元（３Ｄ）の設計データを搭載したＩＣＴグレーダーを使用し、マシンコントロールやマシンガイダンス機能などを用いて作業する。グレーダーの走行に合わせてブレードの高さと勾配を自動で制御するので、技術が不足している若手技術者でも簡単に操作することが可能だ。

また、丁張りが不要で、検測や人力施工を行う作業員も従来の現場と比べて３人程度減らすことができるといい、省人化により建設業界の慢性的な人手不足にも対応している。

現在、上層路盤を施工中で、今後はアスファルト舗装など仕上げに移る。工事は５月に完成する見通しで、現場で監理技術者を務める木村昌弘さんは「勾配があり複雑な線形の工事だが、ＩＣＴ舗装を採用することで、生産性はもちろん安全性の向上にもつながる」と話す。

南建設はこれまでＩＣＴ土工の内製化を進めてきた。南社長は「土工とは違った新しい技術やアイデアを得られると思い、ＩＣＴ舗装の活用を決めた。今後もさらなる効率化や品質の向上に取り組んでいきたい」と力を込めた。

©「日刊　建設工業新聞」　発行所　（株）北陸工業新聞社（本社：石川県金沢市）